

よろこび

日蓮宗 顕聖会

本山 妙興寺

長春山 本誓寺

『よろこび』四十八（幸福とは何かの再考）

書首 齊藤 日軌

幸福とは感謝できること、また感謝を受け取れることである。宇宙の総てが神仏の自分に対する恩寵であることを発見し感謝する。その感謝をかみしめ、報恩の行為として、人々に慈愛をほどこす。その人々の感謝を受け取る。

ここで大切なのは、何が起こってもそれは、自分に対する愛の顕れと悟る力、高次元の魂の認識である。またあらゆる不幸感覚の根本は、愛情不足にある。自分が愛されていないという感覚である。宇宙の総ては自分に対する愛の存在である。それを魂のレベルで理解するには、自分の父や母が子供の時から何をしてくれ、自分は両親に何をしてきたか？振り返ってみるとそれがよく理解できる。

また自分の俱生神（守護霊、指導霊）の愛を魂ハートで受け止めてみる。宇宙根本の本仏意識（九識に）アクセスして直接慈愛のエネルギイを受け取る。自分自身三次元的娑婆の意識を徹底的に愛し、可愛がり、褒めて励ましてあげること重大事です。



みおしえ

「智慧にとぼしきおろかなる人は官能（おもい）のままにおぼれたがうされど心ある人は上なき財宝（たから）のごとく精進（はげみ）を尊（とうと）び守るなり」（法句經二十六友松圓諦訳）

智慧乏しき愚かな人々は放逸にふける。しかし心ある人は、最上の財宝（たから）をまもる。に、つとめはげむのをまもる。」（法句經二十六中村元訳）

知恵の無い人は自分の欲望のままに、放逸に生きてしまいがちです。しかしそこに本当の幸福はやってきません。努力精進して自分を磨くことが大切です。怠けたり、遊んでばかりいないで、技術を高めたり、資格を取ったりすることが自分の生活、幸福に大いに役立ちます。仏道においては大いに精進して、自分の煩惱を捨て、欲望を制御し、自我を捨て慈悲心を養うことにより大いなる悟りへ入れるのです。

心の言葉

南無妙法蓮華經と唱え
精進して、自分の煩惱を捨て、
欲望を制御し、慈悲心を修し
悟りに入ろう

